

14春闘の回答に不満

JR東海 6年ぶりのベースアップ

JR貨物 15年連続のベアゼロ



国鉄労働組合
東海エリア本部
東京港区新橋5・15・5
交通ビル4階
発行責任者 杉本洋一
編集責任者 小山謙一

JR東海は、3月13日に国労に対して14春闘の回答を行いました。回答の内容は、「平成26年4月1日現在の35歳ポイントの基準内賃金を、標準乗数4相当の定期昇給額分とは別に、15000円(0・48%)引き上げる」と言うもので、実に6年ぶりのベースアップとなりました。また、同時に回答があった夏季手当については、2・95カ月と昨年と同月数でした。

国労の14春闘は、1万円のベースアップを基本として全国一斉に2月12日に申し入れを行いました。

国労東海本部は、2月19日の趣旨説明から回答まで7回の交渉を会社と行ってきました。

14春闘では、日本の経済の活性化のためにもすべての労働者のベースアップが必要であること、4月から消費税が増税されることや社会保障費の改悪で更に国民の生活が厳しくなることを訴え、職場や地域での闘いを背景に交渉を進めてきました。結果として6年ぶりのベースアップとなったものの、国労が

求めている1万円には程遠い15000円の回答でした。

会社は、今後の経済の先行きが不透明な点や消費税増税の反動などが予想されることを留意したうえで、「安全安定輸送の確実な確保を第一に、中央新幹線計画をはじめとする各種施策の着実な推進や低コスト化、次世代を見据えた効率的な業務運営体制の構築などを通じた当社の経営基盤のさらなる強化に向けて、全ての社員がより一層奮起することを強く期待」して15000円のベースアップを決定したと回答で述べました。

たことは評価できるが、内容は交渉で物価上昇、消費税増税、社会保険料の値上げなどにより厳しさが増す組合員や社員の生活実態などを中心に議論してきたが、ベア実施金額はそれを補えるものではなく、大変不満の残る回答だとして持ち帰り検討としました。

夏季手当についても昨年と同月数であることから、不満であり持ち帰り検討としました。回答の翌日、3月14日に執行委員会と地方代表者会議を行い、春闘及び夏季手当回答に対する取り扱いを議論し、不満は大きいものの3月17日をもって妥結することとしました。

また配分については、15000円しかないことから、すべての社員に平等にベースアップがされるのが基本であるとの考えのもとに議論を行いました。この間、新しい人事賃金制度以降に行われたベースアップの配分の考えを基に等級間での格差を小さくすることを目指した配分要求とし、交渉を行いました。また、専任社員や契約社員に対してもベースアップの15000円を配分すべきだとの主張もしています。

社員の生活を省みない回答に抗議!

貨物会社は、3月17日に国労に対して14春闘の回答を行ってきました。内容は15年連続となるベアゼロでした。

交渉では、超低額となった昨年の期末手当による組合員の生活への影響をはじめ消費税増税や物価の上昇で厳しくなる生活実態などを議論したものの、その内容がいかにされない回答となりました。

国労は、15年連続ベアゼロは社員のモチベーションを低下させることや景気回復を行なう上で、個人消費の拡大が最も効果的であるとの指摘からも逆行するものである。そして何よりも社員と家族の生活改善に背を向け、企業責任を果たさない回答に断固として抗議し、持ち帰り検討としました。

そして、直ちに闘争指示30号を全国に発し、抗議行動を3月24日まで展開してきましたが、翌25日に中央執行委員会で妥結の判断をしました。

入院、地震、火災、交通事故…一度も経験しない人はいない。

自分の身に起こってからでは遅いのが災害です。何事も備えあれば憂いなし。あなたや家族の幸せを自然災害や人災から守るために、しっかりと組み合わせて幅広く保障します。



みんなを助けるガード
交通共済
全国火災共済連合会 東京海上火災共済

家族の幸せを災害から守る

火災共済/地震風水害共済/交通災害共済/生命共済/入院共済

東京海上火災共済 東京海上火災共済

14春闘勝利へ各地で行動を展開

早朝宣伝や学習など多彩に展開

14春闘で要求実現をめざして各地で闘いをすすめています。3月7日には「国労中央総行動」が行われ、東海本部の各地本も積極的に参加しました。また、12日には新幹線地本が「統一行動」を展開しました。

「国労中央総行動」が3月7日、明治公園で開かれました。

主催者の石上本部委員長のあいさつから始まり、西日本エリア本部・北海道エリア本部・全国貨物協議会から、「14年度新賃金引き上げ要求」及び「労働条件改善要求」の獲得をめざすとともに、非正規労働者の労働条件改善、組織強化・拡大、JR三島・貨物に対する支援策の強化など諸課題の実現に向け決意表明を受けました。

引き続き、東海本部に所属する地方を先頭に各地方から結集した仲間がJR貨物本社前を經由し新宿御苑前までデモ行進を行い、JR貨物本社前では、「賃金抑制策反対」「ベア獲得」な



明治公園での集会



デモ行進する国労の仲間

14時からは、東海本部の仲間とアピールしました。

早朝宣伝で春闘アピール

3 地方本部が統一行動を展開

この春闘では各地方本部が宣伝行動を展開しました。「14新幹線地本は3月12日、」



あいさつする新幹線地本 佐藤業務部長

は、JR三島・貨物への恒久的支援策および安全・安定輸送確立のための抜本対策、整備新幹線建設による並行在来線・地方交通線の維持・存続等の宣伝行動のために国土交通省正門前移動し、代表団の要請中、各地方からの報告を受けました。

雪が舞い非常に寒い中での行動でしたが、新幹線地本10人、名古屋地本11人、静岡地本24人が参加しました。

(報告 静岡地本植田書記長)

ラとティッシュ約7百枚を配布。朝食休憩後には品川駅港南口に場所を変えて6百枚を配布して宣伝しました。

大阪地区では、幹運輸分会、名古屋分会、JAL解雇撤回原告団の仲間も参加。8時から新大阪駅北口とニッセイ新大阪ビルへの歩道橋の2カ所で宣伝行動を行い、約1千枚のチラシとティッシュを配布し訴え、早朝宣伝行動に続いて、「学習会」や「交流会」を実施しました。

東京地区では、「春闘学習会(第1部)」として、東海本部の木村副委員長を講師に主に労働協約について学習を深めました。さらに午後からは、系統別交流会を開き、仕事総点検運動について議論を深めた後、「春闘学習会(第2部)」として、年金等について学びました。

大阪地区では、職種別交流会を3系統に分けて開催。職場実態を出し合うなど交流を深めました。

静岡地本は4日、主要駅等での宣伝行動や学習会を行いました。

名古屋地本は6日、各県の主要駅頭で宣伝行動を行い、多数の組合員が参加しました。

「がん」の保障		「生きる」を創る。Aflac	
保険期間：終身(抗がん剤治療特約は10年更新) 契約年齢：0歳～80歳、 スタンダードプラン 入院給付金日額10,000円の場合		生きるためのがん保険DAYS(デイズ) スタンダードプラン ◆月払保険料(団体取扱) (2011年4月1日現在) 入院給付金日額10,000円 月額タイプ保険料 払込期間：終身(抗がん剤治療特約は10年更新)	
初めて診断確定されたとき	がんの場合 一時金として 100万円 上皮内新生物の場合 一時金として 10万円	35歳	45歳
入院したとき	1日につき 10,000円	男性 3,656円	55歳 65歳
通院したとき	1日につき 10,000円	女性 3,734円	5,608円 9,360円 15,190円
手術したとき	1回につき 20万円	5,274円	8,864円 9,048円
放射線治療を受けたとき	1回につき 20万円	<抗がん剤治療特約>の更新後の保険料は更新後の年齢・ 保険料率によって決まります。	
抗がん剤治療を受けたとき (上皮内新生物は対象外)	抗がん剤治療給付金 1か月 10万円 (すべての保険期間 を通じ通算600万円 まで) 5万円	<募集代理店> アベニール株式会社 AF007-2011-0188 4月25日 TEL: 03-3437-6810 FAX: 03-3437-6822 〒105-0004 東京都港区新橋5-15-5交通ビル3F <募集代理店> アフラック 東京第三法人営業部 〒163-0456 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル 当社保険に関するお問い合わせ、各種お手続き コールセンター 0120-5556-95	
	訪問面談サービスと専門医紹介 (このサービスは、株式会社 法研が提供するサービスです)		
◎詳しくは、パンフレット(契約概要)をご覧ください。			